

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 8 月 28 日現在

機関番号：23702

研究種目：若手 B

研究期間：平成 22 年から～平成 24 年

課題番号：22792236

研究課題名（和文） 助産診断能力を高める分娩シミュレーションプログラムの開発

研究課題名（英文） Development of a simulation program to improve clinical judgment ability in delivery

研究代表者 布原 佳奈（NUNOHARA KANA）

岐阜県立看護大学 看護学部・准教授

研究者番号：10295628

### 研究成果の概要（和文）：

目的：助産診断能力を高める分娩シミュレーションプログラムを開発する

方法：助産師学生、助産実習の臨床指導者および教員を対象に、助産実習で困難だったこと、学内演習で強化すべき点について、質問紙調査あるいは半構成的面接を行った。調査結果をふまえて初産婦の映像教材を作成した。助産師学生を対象に映像教材を用いた分娩シミュレーションプログラムを実施後、評価のための質問紙調査を行った。

結果：“産婦の健康状態の診断”、“分娩進行状態の診断”、“分娩経過の予測”、“分娩進行に応じた産婦と家族のケア”について、9名全員が本プログラムは役に立つと回答した。

結論：本プログラムは産婦をイメージ化しながら、リアルタイムでアセスメントし、助産ケアを考えることができ、助産診断能力が高められることが示唆された。

### 研究成果の概要（英文）：

#### Purpose

The purpose of this study is to develop a simulation program to improve clinical judgment ability in delivery.

#### Methods

The participants of this study were student midwives, clinical instructors and midwifery teachers. Questionnaire or semi-structured interviews were conducted to clarify both the difficulty in midwifery training and the points to be reinforced before the training. We made a eighteen minutes film of a primipara. The simulation program with this film was evaluated through a questionnaire to the student midwives after the practice.

#### Results

All the nine midwifery students responded that this simulation program was useful in terms of clinical judgment of mother's wellness, progression of delivery, prediction of delivery process and suitable care for mother and families.

#### Conclusion

These results suggest that our simulation program with the film enhances the clinical judgment in delivery by enabling a real-time assessment and a midwifery care estimate through imaging a parturient.

### 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011 年度	500,000	150,000	650,000
2012 年度	100,000	30,000	130,000
総計	1,600,000	480,000	2,680,000

研究分野： 医歯薬学

科研費の分科・細目：助産学

キーワード： 分娩 シミュレーション 助産診断

### 1. 研究開始当初の背景

助産師教育では、従来より分娩シミュレータが活用されてきたが、分娩第2期(娩出期)の“分娩介助技術”の習得を目的としてきた。

少子化による分娩数減少により、産婦のケアの経験のない助産師学生が増えている中、分娩介助技術習得に焦点を当てた演習だけでは、臨床で要求される助産診断能力、つまり、時間的経過の中で、変化していく産婦の状態をとらえて分娩経過を診断する力を高めることは難しいと考える。このことを補完する先駆的な試みとしては、早瀬ら(2009)の模擬産婦による分娩進行シミュレーション演習が挙げられるが、演習の度に模擬産婦を確保し、調整する負担の大きさが課題と思われる。

産婦の安全・安楽と助産師学生の学習効果の両側面から考えると、模擬産婦による分娩進行の映像を活用しながら、経過にそった助産診断を行い、分娩予測を立てた上で介助に至る分娩シミュレーションプログラムがこれからの助産師教育には必要である。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、映像により産婦をイメージ化しながら、臨床でよくみられる事例の経過にそった助産診断を行い、シミュレータを活用して助産技術と連動させて学習する分娩シミュレーションプログラムを開発することである。

- (1) 助産の臨地実習を有効に導く学内事前学習用の「分娩シミュレーションの事例設定の必須要件」が明らかにする。
- (2) 映像の視聴により、初学者の助産診断能力を高め得る要素と“キーとなる場面”を明らかにする。
- (3) 分娩シミュレーションプログラムを実施し、評価することで本プログラムの有効性を明らかにする。

### 3. 研究の方法

#### 調査1

対象：助産師学生6名

内容：①受け持ち事例の状況判断やケアで困ったこと、②予想外の展開で戸惑った場面、③指導者の大幅な援助を得てようやく介助した事例について、④学内で学習しておけばよかったこと

方法：半構成的面接を行った。

調査時期：平成22年10月～2月であった。

#### 調査2

対象：助産実習の臨床指導者23名

内容：①学生指導を行う中で困難や危険を感じた事例、②大幅な援助が必要となった場面、③学内で学習しておいてほしいことについて

方法：半構成的面接あるいは郵送法による質問紙調査

調査時期：平成22年11月平成23年7月であった。

#### 調査3

対象：助産実習に関わる教員5名

内容：学内で強化して学習すべき内容

方法：グループインタビュー

#### 調査4

産婦の映像教材を用いた分娩シミュレーションプログラム後の評価

対象：A看護大学の助産師学生6名、B大学看護学部の助産師学生3名

内容：到達度、プログラムのよかった点、改善が必要な点、自由記載

方法：プログラム後に自記式質問紙調査を行った。

時期：平成24年3月と8月

### 4. 研究成果

(1) 学内学習で強化すべき内容

① 学生が回答した学内演習で強化すべき内容：遷延分娩時の日常生活援助、破水後、急速に分娩が進む経産婦の事例、誘発分娩のり

スクの査定、会陰切開時の会陰保護の方法、分娩時にパニックになった産婦への対応、弛緩出血のリスクの査定と対処方法、胎児機能不全のアセスメントと対処方法等であった。②臨床指導者が回答した学内演習で強化すべき内容：臍帯巻絡、遷延分娩、誘発分娩、回旋異常の際の援助、モニタリングの判読、家族へのケア等であった。また、助産診断・ケアについては、自己判断せずに実施前には臨床指導者とよく相談してほしい、分娩介助は準備から片づけまでを学生同士でもっと連携をとりながら行えるとよいとの意見がみられた。

### ③教員が回答した学内演習で強化すべき内容

経過の早い経産婦やハイリスク事例も大事であるが、学内では基本的な産婦のニーズ、家族のニーズ、分娩進行をアセスメントし、必要なケアを考える疑似体験できる初産の事例が望ましいことが明らかになった。

#### (2)初産婦の映像教材の開発

調査1から3の結果をふまえて、助産担当教員で検討した結果、本プログラムでは、夫立ち会い予定の正常な経過の初産婦(32歳 妊娠37週2日)を取り上げることとした。学生および臨床指導者から得た学内演習で強化すべき事項を産婦事例に反映させて、入院から児娩出まで8場面からなるシナリオを作成した。プロの役者2名に産婦と夫を演じてもらい、陣痛室、分娩室で撮影し、計18分程度に編集した。

(3)分娩シミュレーションプログラムの開発  
産婦の映像教材を場面ごとに視聴し、産婦や家族のニーズ、分娩進行についてグループディスカッションした後、次の場面までに必要な援助を検討し、必要時、教員が助言をするという学習サイクルを計8場面行った。

#### (4)分娩シミュレーションプログラムの評価

##### ①到達度

“産婦の健康状態の診断”、“分娩進行状態の診断”、“分娩経過の予測”、“分娩進行に応じた産婦と家族のケア”について、9名全員が本プログラムは役に立つと思うと回答した。

“胎児の健康状態の診断”については、役に立つと思うが4名、どちらでもないおよびあまり役に立たなかったと答えたものが5名であった。

##### ②プログラムのよかった点

「とても楽しくて実際に産婦さんに関わっ

ているみたいに考えることができた」「イメージが付き、少し自信につながった」「産婦のリアルな状態を理解できた」「入院から分娩室入室、出産までの産婦の変化を追ってみることができた。」「家族に対するケアも考えることができた」「産婦にとって今どのようにすべきかを判断することが苦手なことに気づいた」「自分に不足しているところがわかった」等であった。

##### ③プログラムに改善が必要な点

「分娩室入室後のケアをもっと学びたかった」「模型ではわからない排乳、発露を学びたい」「清潔野を作成するタイミングを学びたかった」等であった。

##### ④自由記載

「他のパターン(映像)もみてみたい」「DVDを用いた学習をサポートする教員の教え方で良くも悪くもなると思う。」等のコメントがあった。

以上のことから、産婦の映像教材を用いた分娩シミュレーションプログラムは、①産婦のイメージ化、②視覚・聴覚的に産婦家族のニーズおよび分娩進行について理解すること、③リアルタイムでアセスメントし、助産ケアの検討をすることができ、助産診断能力が高まることが示唆された。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0件)

〔学会発表〕(計 1件)

布原 佳奈, 武田 順子, 瀨瀬 なつ子, 名和文香, 服部 律子: インストラクショナルシステムデザイン (ISD) に基づいた産婦の看護の授業実践, 日本看護学教育学会第22回学術集会, 2012年8月5日, 熊本. 日本看護学教育学会誌, 22巻学術集会講演集 Page227

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別：  
○取得状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

布原 佳奈 (NUNOHARA Kana)  
岐阜県立看護大学 看護学部・准教授  
研究者番号：10295628